

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年2月9日

【四半期会計期間】 第139期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）

【会社名】 株式会社住友倉庫

【英訳名】 The Sumitomo Warehouse Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 社長 小野 孝則

【本店の所在の場所】 大阪市北区中之島三丁目2番18号

【電話番号】 大阪06（6444）1183（代表）

【事務連絡者氏名】 経理部主計課長 本間 誠司

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝公園二丁目11番1号

【電話番号】 東京03（6430）2652（代表）

【事務連絡者氏名】 経理部東京経理課長 野呂 健一

【縦覧に供する場所】 株式会社住友倉庫 神戸支店
（神戸市中央区江戸町85番地1）
株式会社住友倉庫 東京支店
（東京都港区芝大門二丁目5番5号）
株式会社住友倉庫 横浜支店
（横浜市中区山下町22番地）
株式会社住友倉庫 名古屋支店
（名古屋市中区錦一丁目10番20号）
株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第138期 第3四半期 連結累計期間	第139期 第3四半期 連結累計期間	第138期
会計期間		自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
営業収益	(百万円)	128,002	130,688	174,738
経常利益	(百万円)	8,423	10,286	10,859
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純利益	(百万円)	5,848	6,365	7,133
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	12,058	5,605	20,350
純資産額	(百万円)	163,195	174,523	171,503
総資産額	(百万円)	293,552	311,858	302,545
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	32.75	35.62	39.94
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	32.74	35.58	39.93
自己資本比率	(%)	53.1	53.5	54.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	10,310	10,777	16,471
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	8,246	17,379	9,107
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	8,004	6,549	8,865
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	17,015	21,248	21,828

回次		第138期 第3四半期 連結会計期間	第139期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自平成26年10月1日 至平成26年12月31日	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	11.21	13.12

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、米国では景気の緩やかな回復が継続し、欧州経済も持ち直しの動きが見られた一方、中国や東南アジアの経済成長は鈍化しました。日本経済は、総じて緩やかな回復基調が続きましたが、生産活動や輸出が弱含むなど、景気は先行き不透明な状況で推移しました。

このような情勢のもと、当社グループにおきましては、物流事業ではベトナム・ハノイに新拠点を開設するなど物流ネットワークの拡充に努めたほか、大阪港・南港地区で建設を進めていた新倉庫及び文書等情報記録媒体を取り扱う専用施設「羽生アーカイブズ第2センター」（埼玉県羽生市）の第二期倉庫が竣工し、営業を開始するなど、事業基盤の強化を図ってまいりました。

海運事業では、米国西海岸における港湾混雑の影響がありましたが、北米北西岸航路サービスを提供するWestwood Shipping Lines, Inc.は運航への影響を最小限にとどめ、北米向け貨物の取扱拡大に注力してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間は、海運事業において輸送実績が前年同期を上回ったことなどから、営業収益は1,306億8千8百万円と前年同期比2.1%の増収となりました。また、営業利益はテナントの入居に伴う不動産賃貸収入の増加等により82億7千1百万円と前年同期に比べ18.0%の増益となり、経常利益は102億8千6百万円と前年同期比22.1%の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は63億6千5百万円と前年同期に比べ8.8%の増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

物流事業

倉庫業では、文書等情報記録媒体を中心に貨物保管残高が堅調に推移した一方、入出庫の取扱いが前年同期を下回ったことから、倉庫収入は170億1千2百万円（前年同期比0.3%減）となりました。港湾運送業では、コンテナ荷捌において中国航路の取扱いが前年同期を下回ったことから、港湾運送収入は278億9千2百万円（同1.6%減）となりました。国際輸送業では、プロジェクト輸送及び一貫輸送の取扱いが前年同期に比べ減少したことから、国際輸送収入は258億円（同3.0%減）となりました。陸上運送業及びその他の業務は、一部荷主の配送センター業務の取扱いが終了したこと等により、陸上運送ほか収入は283億6千7百万円（同1.5%減）となりました。

以上の結果、物流事業全体の営業収益は990億7千3百万円（前年同期比1.7%減）となりました。営業利益は、新規施設の稼働に伴う取得時一時税金の発生等もあり、前年同期比2.0%減の66億5千4百万円となりました。

海運事業

海運事業では、北米向けコンテナ貨物を中心に前年同期を大きく上回る取扱いとなったほか、為替相場が前年同期に比べ円安となったことなどにより、営業収益は248億6百万円（前年同期比16.0%増）となりました。営業利益は、燃料油価格の低下も寄与して、前年同期比2.2倍の15億9千9百万円となりました。

不動産事業

不動産事業では、平成26年6月にリニューアル工事が完了した賃貸物件の賃料収入が回復したことなどから、営業収益は75億2千5百万円（前年同期比15.5%増）、営業利益は前年同期比35.0%増の34億2千8百万円となりました。

(注) 1. 上記のセグメントの営業収益には、セグメント間の内部営業収益7億1千5百万円（前年同期7億5百万円）を含んでおります。

2. 上記のセグメントの営業利益は、各セグメントに帰属しない全社費用等34億1千万円（前年同期30億3千4百万円）控除前の利益であります。

セグメント別の営業収益内訳

内訳	前第3四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	前年同期比増減	
			増減額	比率%
物流事業	100,808百万円	99,073百万円	1,735百万円	1.7
（倉庫収入）	(17,069)	(17,012)	(56)	(0.3)
（港湾運送収入）	(28,337)	(27,892)	(445)	(1.6)
（国際輸送収入）	(26,587)	(25,800)	(787)	(3.0)
（陸上運送ほか収入）	(28,814)	(28,367)	(446)	(1.5)
海運事業	21,381	24,806	3,424	16.0
（海運事業収入）	(21,381)	(24,806)	(3,424)	(16.0)
不動産事業	6,517	7,525	1,008	15.5
（不動産事業収入）	(6,517)	(7,525)	(1,008)	(15.5)
計	128,707	131,404	2,696	2.1
セグメント間内部営業収益	705	715	10	1.5
純営業収益	128,002	130,688	2,686	2.1

(2) 資産、負債及び純資産の状況

資産合計は、社債の発行に伴い「現金及び預金」、「長期預金」が増加したこと等により、前期末比3.1%増の3,118億5千8百万円となりました。また、負債合計は、「社債」の増加等により、前期末比4.8%増の1,373億3千5百万円となりました。純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により「利益剰余金」が増加したこと等により、前期末比1.8%増の1,745億2千3百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却による資金の留保等により107億7千7百万円の増加（前年同期は103億1千万円の増加）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入による支出や有形固定資産の取得による支出等により173億7千9百万円の減少（前年同期は82億4千6百万円の減少）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済や配当金の支払いはあったものの、社債の発行等により65億4千9百万円の増加（前年同期は80億4百万円の減少）となりました。

当第3四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フローは、以上の結果に「現金及び現金同等物に係る換算差額」（5億2千8百万円）を加えた全体で5億8千万円の減少となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は、212億4千8百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社及び連結子会社が対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、従業員数に著しい変動はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売の実績に著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動並びに新設及び改修計画の著しい変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	395,872,000
計	395,872,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	195,936,231	195,936,231	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数1,000株
計	195,936,231	195,936,231	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額(百万円)	資本準備金 残高(百万円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	-	195,936,231	-	21,822	-	18,655

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 17,230,000	-	単元株式数1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 178,217,000	178,217	同上
単元未満株式	普通株式 489,231	-	-
発行済株式総数	195,936,231	-	-
総株主の議決権	-	178,217	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権5個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、住和港運株式会社所有の相互保有株式200株及び当社保有の自己株式201株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社住友倉庫	大阪市北区中之島三丁目2番18号	17,209,000	-	17,209,000	8.78
住和港運株式会社	大阪市西区安治川二丁目1番11号	21,000	-	21,000	0.01
計	-	17,230,000	-	17,230,000	8.79

(注) 当社は、平成27年12月31日現在で自己株式17,212,863株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合8.78%)を所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,861	30,557
受取手形及び営業未収入金	19,471	19,521
販売用不動産	76	51
仕掛品	30	23
繰延税金資産	773	590
その他	4,928	5,545
貸倒引当金	110	104
流動資産合計	52,031	56,184
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	64,480	70,202
機械装置及び運搬具(純額)	3,437	3,985
船舶(純額)	7,831	7,473
工具、器具及び備品(純額)	1,147	1,085
土地	49,265	49,424
建設仮勘定	7,135	2,998
その他(純額)	676	647
有形固定資産合計	133,973	135,817
無形固定資産		
のれん	3,823	3,135
借地権	5,573	5,546
ソフトウェア	1,445	1,351
その他	217	209
無形固定資産合計	11,060	10,242
投資その他の資産		
投資有価証券	96,351	95,833
長期貸付金	445	481
繰延税金資産	2,353	2,159
長期預金	-	5,000
その他	6,542	6,389
貸倒引当金	212	250
投資その他の資産合計	105,480	109,613
固定資産合計	250,513	255,673
資産合計	302,545	311,858

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	12,261	12,111
1年内償還予定の社債	100	100
短期借入金	16,567	13,461
未払法人税等	1,522	1,290
賞与引当金	1,583	1,106
その他	7,040	5,665
流動負債合計	39,075	33,735
固定負債		
社債	12,200	25,100
長期借入金	43,919	43,160
繰延税金負債	24,203	23,841
退職給付に係る負債	2,693	2,592
役員退職慰労引当金	92	69
長期預り金	7,665	7,753
その他	1,192	1,082
固定負債合計	91,966	103,599
負債合計	131,041	137,335
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,822	21,822
資本剰余金	19,159	19,240
利益剰余金	83,175	87,065
自己株式	8,956	8,951
株主資本合計	115,201	119,176
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	42,945	42,649
繰延ヘッジ損益	7	21
為替換算調整勘定	5,719	4,823
退職給付に係る調整累計額	261	281
その他の包括利益累計額合計	48,919	47,733
新株予約権	101	163
非支配株主持分	7,280	7,449
純資産合計	171,503	174,523
負債純資産合計	302,545	311,858

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
営業収益		
倉庫収入	17,069	17,012
港湾運送収入	28,054	27,613
国際輸送収入	26,587	25,800
陸上運送収入	20,479	20,069
海運収入	21,269	24,675
物流施設賃貸収入	3,980	3,902
不動産賃貸収入	6,139	6,970
その他	4,421	4,645
営業収益合計	128,002	130,688
営業原価		
作業諸費	79,043	78,818
人件費	14,516	14,818
賃借料	7,482	7,773
租税公課	1,421	1,663
減価償却費	4,997	5,417
その他	6,453	6,376
営業原価合計	113,914	114,868
営業総利益	14,087	15,820
販売費及び一般管理費		
給料手当及び福利費	3,821	4,008
賞与引当金繰入額	169	259
退職給付費用	181	210
のれん償却額	362	363
その他	2,541	2,707
販売費及び一般管理費合計	7,076	7,549
営業利益	7,011	8,271
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,642	1,765
持分法による投資利益	239	191
その他	187	583
営業外収益合計	2,069	2,540
営業外費用		
支払利息	386	333
為替差損	186	-
その他	85	191
営業外費用合計	657	525
経常利益	8,423	10,286

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	21	34
受取補償金	1,994	-
為替換算調整勘定取崩益	-	32
特別利益合計	1,016	67
特別損失		
固定資産除却損	55	94
投資有価証券評価損	-	64
事業構造改善費用	2,162	2,30
特別損失合計	218	189
税金等調整前四半期純利益	9,221	10,164
法人税、住民税及び事業税	2,216	3,025
法人税等調整額	936	272
法人税等合計	3,153	3,297
四半期純利益	6,068	6,866
非支配株主に帰属する四半期純利益	220	501
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,848	6,365

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	6,068	6,866
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,108	312
繰延ヘッジ損益	-	23
為替換算調整勘定	762	889
退職給付に係る調整額	10	22
持分法適用会社に対する持分相当額	130	58
その他の包括利益合計	5,990	1,261
四半期包括利益	12,058	5,605
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,751	5,315
非支配株主に係る四半期包括利益	307	289

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,221	10,164
減価償却費	5,387	5,747
減損損失	51	-
受取補償金	994	-
のれん償却額	362	363
引当金の増減額(は減少)	580	465
受取利息及び受取配当金	1,642	1,765
支払利息	386	333
持分法による投資損益(は益)	239	191
固定資産売却損益(は益)	21	34
固定資産除却損	55	94
投資有価証券評価損益(は益)	-	64
売上債権の増減額(は増加)	538	328
仕入債務の増減額(は減少)	206	52
その他	295	1,259
小計	11,535	12,670
利息及び配当金の受取額	1,730	1,832
利息の支払額	407	345
補償金の受取額	497	-
法人税等の支払額	3,045	3,379
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,310	10,777
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	4,779	13,847
定期預金の払戻による収入	6,425	4,560
有形固定資産の取得による支出	11,997	7,890
有形固定資産の売却による収入	32	170
無形固定資産の取得による支出	286	354
投資有価証券の取得による支出	30	29
投資有価証券の売却による収入	3,003	0
貸付けによる支出	72	68
貸付金の回収による収入	29	29
その他	572	52
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,246	17,379
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	6,282	5,131
短期借入金の返済による支出	5,638	4,696
長期借入れによる収入	200	1,100
長期借入金の返済による支出	6,519	5,399
社債の発行による収入	-	13,000
配当金の支払額	2,124	2,220
その他	204	364
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,004	6,549
現金及び現金同等物に係る換算差額	339	528
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,601	580
現金及び現金同等物の期首残高	22,616	21,828
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,015	21,248

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、Sumiso (Laem Chabang) Co., Ltd.は新たに設立したため、連結の範囲に含めております。また、当第3四半期連結会計期間において、上海遠州物流有限公司は清算したため、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(3)、連結会計基準第44 - 5項(3)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、のれん308百万円、資本剰余金19百万円、利益剰余金152百万円及び為替換算調整勘定136百万円が減少しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ26百万円増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

一部の連結子会社においては、税金費用の計算にあたり、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

当社及び連結子会社は、下記会社等の銀行借入等に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
夢洲コンテナターミナル(株)	1,185百万円	夢洲コンテナターミナル(株)	1,145百万円
横浜シャーシターミナル協同組合	397百万円	横浜シャーシターミナル協同組合	326百万円
(株)ワールド流通センター	264百万円	(株)ワールド流通センター	181百万円
大阪港総合流通センター(株)	28百万円	青島遠州国際物流有限公司	16百万円
青島遠州国際物流有限公司	19百万円	大阪港総合流通センター(株)	16百万円
青海流通センター(株)	18百万円	青海流通センター(株)	7百万円
計	1,914百万円	計	1,693百万円

このほかに従業員の住宅資金銀行借入に対し、前連結会計年度は総額134百万円、当第3四半期連結会計期間は総額118百万円の保証を行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 受取補償金

前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
埼玉県戸田市土地区画整理事業に伴い収受した移転補償金	-

2. 事業構造改善費用

前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
連結子会社において中国事業の再編に伴い計上した特別退職金105百万円、減損損失51百万円及びその他5百万円	子会社における中国事業の再編に伴う特別退職金等

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
現金及び預金勘定	23,351百万円	30,557百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	6,336百万円	9,308百万円
現金及び現金同等物	17,015百万円	21,248百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,160	6.5	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	1,071	6.0	平成26年9月30日	平成26年12月2日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,250	7.0	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	1,072	6.0	平成27年9月30日	平成27年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流事業	海運事業	不動産事業	計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	100,492	21,269	6,240	128,002	-	128,002
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	316	112	276	705	705	-
計	100,808	21,381	6,517	128,707	705	128,002
セグメント利益	6,791	715	2,538	10,045	3,034	7,011

(注)1. セグメント利益の調整額 3,034百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 3,012百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社及び一部の連結子会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「物流事業」セグメントにおいて、建物及び構築物等の減損損失を計上し、事業構造改善費用に含めて計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては51百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流事業	海運事業	不動産事業	計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	98,768	24,675	7,244	130,688	-	130,688
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	304	130	280	715	715	-
計	99,073	24,806	7,525	131,404	715	130,688
セグメント利益	6,654	1,599	3,428	11,682	3,410	8,271

(注)1. セグメント利益の調整額 3,410百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 3,436百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社及び一部の連結子会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間から「企業結合に関する会計基準」等を適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「海運事業」で26百万円増加しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	32円75銭	35円62銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	5,848	6,365
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	5,848	6,365
普通株式の期中平均株式数(千株)	178,570	178,718
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	32円74銭	35円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	65	197
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があったも のの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成27年11月5日開催の取締役会において、平成27年9月30日現在の株主名簿に記録された株主又は登録質権者に対し、次のとおり中間配当金を支払うことを決議しました。

中間配当金の総額 1,072,362,180円

1株当たりの額 6円

支払請求権の効力発生日並びに支払開始日 平成27年12月1日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】
該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月9日

株式会社住友倉庫
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松本 学 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堀内 計尚 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社住友倉庫の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社住友倉庫及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。